

STORY

開発インタビュー

アルトレール 僕らの「ALTRAIL」が、境界を越えたわけ



障がい者と健常者の境目をなくしたい

いつ何が起るかは、誰にも分からない。そして、誰にでもなにかが起る。身体に支障が出たからこそ、分かったことがある。そこで誕生したのが「ALTRAIL」だ。ひとは、2018年に急な脳梗塞で右半身麻痺に。もうひとは、2020年に右股脛のコンパートメント手術で一時寝たきり状態に。建築に携わる2人が、障害を抱えたことで気づかされることも多かった。「横断歩道を渡る時は、時間制限があるので命がけ。」「勾配のある道の点字ブロックは、足もっていかれるので歩くのが困難。」「階段の手すり位置など、左利きに優しくない社会。」「急に見える世界が変わった。それまで建築をする上で、バリアフリーへの意識はあったけれど、座学的なものだったかもしれない。本当の意味で、ユニバーサルな視点を手に入れたと2人は語る。視点が変わったことで、気づくことも増える。それは、福祉用具というカテゴリーの狭さに関しても同様だった。使いたいと思える歩行器具や家具って、なかなか見つからないものだ。



デザイン性がありつつ、 身体を支えて歩行をしやすくするもの

「歩くときに身体を支えになる、デザイン性の高いものが欲しい」という、率直な想いが募っていった。あるとき、車椅子に乗った医師・熊谷晋一郎氏が「自立は、依存先を増やすこと」という言葉を語っていた。モヤモヤが募っているなか、この言葉に感銘を受け、2人はプロダクト製造をしようと意気投合。無いのなら、作るっきゃない。手すり等の福祉用具のメーカーの代表をしていた新井文武氏にアドバイスを受けながら、2022年から商品開発が本格的にスタートした。これまで見てきたいわゆる“福祉用の手すり”は、手すりを補強するために、下地補強を付ける必要があった。その下地がなければ、インテリアにも多様性が出るだろう。しかも手すりって、一度付けたらもう外せない存在になってしまっている。「補強板をなくして、手すりだけを壁に取り付けられないか?」「人の身体を預けられる強度のある手すりを作れないか?」「デザイン的にも楽しみたい。」「手すり機能に、プラスアルファの価値を加えられない?」壁にそのまま取り付けられて、JIS規格である120kgの耐荷重に耐えられて、インテリアのイメージに合わせてカバーのデザインを選べる、そして取り外し可能で、テレビ棚や壁掛けなど手すり以外の機能を持つ。そんな手すり(支持レール)のイメージが頭に浮かんでいた。

パーツを全て別工場に委託し、 独自のサプライチェーンを構築

畑違いの2人にとっては、初めての製造業へのチャレンジ。最初にぶつかったのは、金型製作だった。金型を用意するために約1,000万円という試算が出たが、これでは最初から予算オーバーになる。「金型を必要としない作り方があるかもしれない。」基本概念をゼロから見直すことにした。金型を用意して、一つの会社で製造するスタイルではなく、手すりに必要なパーツ(部品)を全てバラバラにして、最終的に組み合わせる方法を考えた。3Dプリンターを導入して、手すりに必要なパーツを全てバラバラに分解して、それぞれの模型を何十パターンも試す。レール、クリップ、ブラケット……、さまざまに組み合わせながら試行錯誤の日々が続いた。同時並行で、そのパーツ製造を得意とする工場も探した。もちろん製造委託を検討する全ての工場に赴き、現場を確認する。地域のものづくりの力を生かしたいと、東大阪市や東住吉区、岡山、福井、和歌山の工場に、パーツ製造の委託先が決まった。分解することで小ロットの製造も可能になり、大きな金型を用意するよりも予算が抑えられる仕組みが完成。こうして独自のサプライチェーンが誕生した。建築家として見てきた世界に、ものづくりの視点が加わった瞬間でもあった。



ライフスタイルの変化と 多様性に寄り添う手すりを

いつかになにかが起ったときに。障がいがある人と、無かろうと、常に変化しうる日々に。その手すりは必ずしも、万人に便利なものではない。利き手も違えば、背の高さも違う、障がいだって個人によって異なるし、高齢者になった時の衰え方も千差万別だ。家に置きたいソファやカーテンの色の好みもみんな違うように、人によって、手すりの最適なカタチも違うかもしれない。もしかすると手すりが必要のない生活が急に訪れるかもしれない。そんなときに、棚やブラケット照明などの「家具」として利用できてもいい。子どものつかまり立ちから高齢者のための手すりへと、人の成長過程やライフスタイルの変化や多様性に対応する、そんな手すりがあってもいいじゃないか。自宅や会社、施設など、空間や状況に合わせて、柔軟にカタチを変えて、身体と心に安心を与えてくれるプロダクト。障がい者と健常者。子どもと高齢者。手すりとう家具。境界を越える「ALTRAIL」は、いつまでも使う人その人のためのものであって欲しいと、願いが込められている。

